

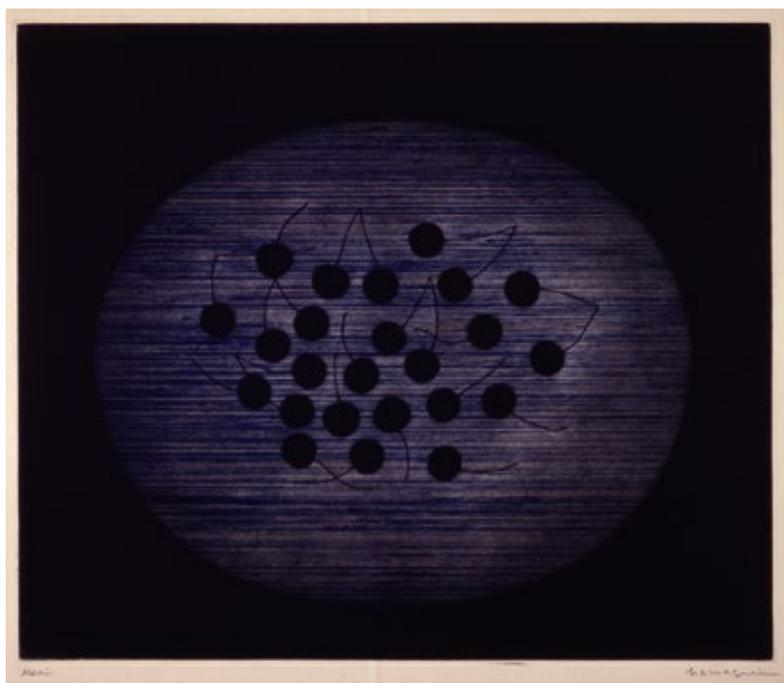
手のひら ほどの 小さな絵

ーパリ1930年代の浜口陽三ー

9.11 sat → 12.22 wed

20世紀を代表する銅版画家・浜口陽三の、若きパリの時代を紹介する展覧会です。浜口は1930年に、東京美術学校の彫塑科を2年で中退し、フランスへ向かいました。一時はパリのサロンに油彩画を出品しますが、次第に大画面の油絵を描くことに興味を失い、小品や水彩画を制作したと言います。戦争によりやむなく帰国するまでの9年間の作品はほとんど失われてしまいました。しかし戦後、40歳を過ぎて完成させた神秘的な銅版画は、かつて国際芸術都市で育んだ理想の果実でもあったはず。本展では銅版画約30点と共に、パリ時代の小さなグアッシュ3点を特別展示するほか、作家のインタビューや資料によって当時を探ります。

※銅版画や油彩画約50点の構成で、銅版画の一部は展示替します。



《黒いさくらんぼ》 1956年 カラーメゾチント(二色刷り) 29.3×34.3cm



《裸婦》 1930年代後半 油彩、板 10.0×14.0cm



《豹》 1937-38年頃
グアッシュ、石膏板 7.9×9.5cm 個人蔵

展覧会概要

展覧会名 | 手のひらほどの小さな絵ーパリ1930年代の浜口陽三ー
会期 | 2021年 9/11(土) ~ 12/22(水)
開館時間 | 11:00~17:00(土日祝10:00~/最終入館16:30)
入館料 | 大人 600円/大学・高校生 400円/中学生以下 無料
休館日 | 月曜日(ただし9/20は開館し、翌9/21休館)

最新の開館情報、イベントの予定は
公式HPでご確認ください。

美術館概要

ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-35-7

Tel_03-3665-0251

Fax_03-3665-0257

Mail_musee@yamasa.com

HP_ <https://www.yamasa.com/musee/>

アクセス_

東京メトロ半蔵門線[水天宮前]3番出口そば

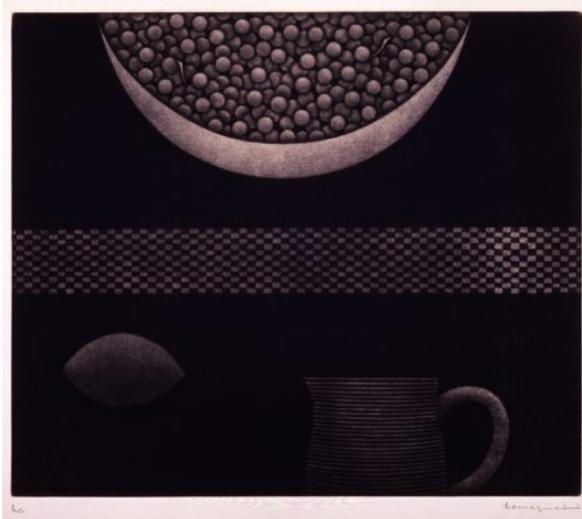
東京メトロ日比谷線[人形町]A2出口徒歩8分

首都高速箱崎IC[浜町出口]または[清洲橋出口]T-CAT駐車場前





浜口陽三 (1936年頃)

浜口陽三「美しいエレエヌ」
(油彩、1934年)の写真
撮影:マルク・ポー《パトリックのさくらんぼ》 1980年
カラーメゾチント 7.6×7.6cm

《水差しとぶどうとレモン》 1957年 メゾチント 29.4×34.4cm

《裸婦》 1937-38年頃
グアッシュ、石膏板 8.0×9.5cm 個人蔵

Event

毛糸でつくる小さな財布

毛糸や編み棒は、浜口作品にたびたびあらわれます。作品からイメージした色の毛糸を使って、手のひらサイズのお財布を制作します。「かぎ針編み」のため、初心者の方でも気兼ねなくご参加いただけます。

講師 野口智子(eccomin/ニットデザイナー/作家)
日時 11/27(土)、11/28(日) ①11:00-12:30 ②14:00-15:30
参加費 1500円+入館料 定員 各回4名
申込 10/27(水)12:00から電話(03-3665-0251)にて受付

**小さなフラワーボックス**

さくらんぼやぶどうなどの丸いモチーフや作品の構図をイメージしながら、小さな箱のなかにドライフラワーやプリザーブドフラワーを詰めて、両手に収まる小さなフラワーボックスを作ります。

講師 MY'S 今泉冴也香(フラワーアーティスト)
日時 10/16(土) ①11:00-12:30 ②14:00-15:30
持ち物 はさみ(花用またはクラフト用)、持ち帰り用の袋
参加費 3000円+入館料 定員 各回6名
申込 9/16(木)12:00から電話(03-3665-0251)にて受付



画像はイメージです

プレスリリースご担当者様

本展に関するお問い合わせは広報担当の下澤・七井までお願いいたします。
TEL_03-3665-0251 FAX_03-3665-0257 メール_musee@yamasa.com

